

豊かな実りは自然の土壌から



**アープ・トーマス・オルガ(ETO)菌と共に土づくりから
土づくりは、作物を健康に育てる基本です。**

この基本を大切に当社は自然環境農法を推進致しております

稲作栽培の使用方法

使用方法(10a当り)

使用例	散布時期	通常使用方法
例 1	①前作収穫後(秋中) ②代かき時に	トーマスクン 4~5ℓと尿素 3~6 kg位を混合散布し耕起する。 (この尿素は、稲藁分解の為に窒素分補給で堆肥などを投入していれば省略) 基肥(現行の 50~80%目安)と ETO 菌液肥 2~3ℓ
例 2	① 春先(早めに) ②代かき時に	ETO 菌液肥 4~5ℓと尿素 3~6 kg位を混合散布し耕起する。 (この尿素は、稲藁分解の為に窒素分補給で堆肥などを投入していれば省略) 基肥(現行の 50~80%目安)と トーマスクン 2~3ℓ
例 3	① 代かき時に ② 穂生育期	基肥(現行の 50~80%目安)と トーマスクン 4~5ℓ トーマスクンを 2~3 ℓを葉面より散布。
育苗	例 1 育苗土 1トンに対し 10を散布 1~2 回攪拌し分解(1ヶ月位)する。 例 2 播種発芽後 2~3 葉の頃 500~800 倍液を葉面より散布する。 散布は、ジョウロでも動埴でも結構です、20 日位の間隔で 2 回位散布する。	根の張りが良く、健全苗が育成出来ます。

施肥関係

※ 近年では、配合肥料等の利用が多いですが、その場合でも収穫後早々に、藁や籾殻と堆肥や豚糞・鶏糞を投入し耕起した方がよい土づくりとなります。
その場合には、藁や堆肥の肥効を踏まえ現行肥料は、2~5 割程減量してください。

【根張り&穂長・穂粒状況】



トーマスC点・トーマスB点・トーマスA点・一般A点・一般B点



トーマスC点・トーマスB点・トーマスA点・一般A点・一般B点
穂長 20cm 22cm 21cm 18cm 18.2cm
穂粒 126粒 123粒 180粒 116粒 114粒

参考に

※ 台風や天候不順などにより、弱った時や病害等の恐れがある時などは 500 倍液にし散布すると、回復や予防効果があります。

早速ですが稲作の件ですが、今からですと下記の様な使用をお勧め致します。

圃場の方ですが、適正な堆肥など使用していればよいのですが、もし糞だけが入っておられる場合炭素率が非常に高いので窒素飢餓症状が初期的に起きる可能性がありますから、この様な状態であれば、早急にも、鶏糞など 10 a 当り 20 袋か、尿素を 10 kg に E・スケールを現液 5~6 ㍓を 150 ㍓の水に希釈し散布して耕して下さい。

元肥は例年の半分程度にして下さい（初期は生育が遅い様な気がしますが次第に追いついて来ます）。

途中では 1 回程度病害予防的に出穂時期に 2 ㍓を散布して下さい。

後は様子を伺いながら穂肥えは施して下さい。（量は例年からですとやはり半分程度目安に）

苗ですが、1~2 回程葉面から散布すると健全苗になります。

1 回の時は 500 倍液で、2 回の時は 800~1000 倍液が良いと思います。

以上、宜しくお願い致します。